第16講　明治維新と立憲国家の成立
PART3 明治初期の経済政策と国際問題

Chapter 1　明治初期の経済政策

目標
国立銀行とは何だろう？
政商と財閥の違いは何だろう？

1　近代的貨幣・金融制度の整備

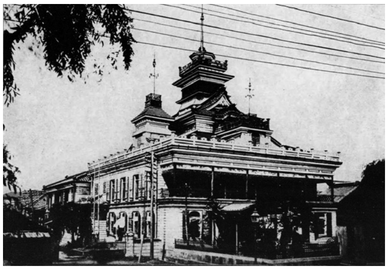
①近代的貨幣・金融制度の整備

A　戊辰戦争（1868 ~ 69 年）の財源としての不換紙幣発行
太政官札（1868 年），**民部省札**（1869 年）を由利公正（越前藩）の建議で発行。
※関西商人からの御用金徴収だけでは足りなかった。

B　**新貨条例**（**1871 年**，伊藤博文の建議）
［1　　］**・銭・厘**の十進法による建前上の金本位制確立を図り，
造幣局で金貨・銀貨・銅貨を鋳造。
※実際には金銀複本位制（事実上の銀本位制？）。金貨はほとんど流通せず，
開港場では貿易銀，国内では不換紙幣が主に用いられた。

C　新たな政府紙幣 = 明治通宝札の発行（1872 年）
太政官札，民部省札に続く不換紙幣を発行。ドイツで印刷された。

D　［2　　　　　　　　］（**1872 年**，［3　　　　　　　］の尽力）
アメリカのナショナル = バンク制度にならった**民間銀行**を設立。
民間の資本力で兌換紙幣を発行させようとした。
※発行銀行券の正貨兌換を義務付けたため，設立は三井組・小野組が出資した
東京の**第一国立銀行**（1873 年）など 4 行にとどまる。


第一国立銀行

渋沢栄一

E　**国立銀行条例改正**（1876年）

発行銀行券の正貨兌換義務を取り除いたうえ，

金禄公債証書を資本金とすることも認められたので，

第十五国立銀行〔華族銀行〕をはじめ設立が急増した。

※1879年，京都の第百五十三国立銀行まで設立が進む。

銀行の乱立により不換紙幣が出回り，インフレーション〔物価高〕が進んだ。

2　政商の成長

〔4　　　　〕は，政府の保護を受けた

特権的商人（小売・流通・貿易・金融など第三次産業のみ）。

のちに第一次産業や第二次産業も含む，

多角的な企業グループ＝**財閥**へと成長するものも多かった。

①江戸時代からの大商人

〔5　　　　〕，**住友**，鴻池など。

②旧藩士

土佐藩出身の**岩崎弥太郎**と弟の弥之助，薩摩藩出身の〔6　　　　〕など。

③その他

幕末の両替商から出た**安田善次郎**，鉱山経営の**古河市兵衛**など。

岩崎弥太郎

まとめ

国立銀行は，アメリカの制度をまねた紙幣発行権を持つ民間銀行だった。

政商は政府と結びついた特権的商人で，

財閥は多角経営を行う独占的企業グループのこと。

Chapter 2　明治初期の国際関係

目標
征韓論争は国内的にはどのような問題だったのだろう？
欧米諸国と東アジア諸国に対する外交の違いについて知ろう。

1　明治初期の欧米との関係

①**岩倉使節団（1871～73年）**

岩倉使節団

A　目的

条約改正の予備交渉と欧米諸国の**視察**。

B　全権

右大臣〔1　　　　　　〕を大使に，

大久保利通（薩摩），

木戸孝允・伊藤博文（長州），

山口尚芳（肥前）が副使として随行。

※中江兆民（土佐）や**津田梅子**らが留学生として使節団に同行。

C　結果

欧米視察は一定の成果をあげるが，条約改正の予備交渉は失敗。

※随行した久米邦武は『(特命全権大使）米欧回覧実記』を著す。

D　影響

この外遊体験が，使節団と**留守政府**（三条実美・**西郷隆盛・板垣退助・江藤新平**ら）との対立を引き起こし，**明治六年の政変〔征韓論争〕**が発生する。

②国境の確定

A　**樺太・千島交換条約**（1875年，ペテルブルグにて）→日本全権**榎本武揚**

開拓長官黒田清隆が，北海道開拓事業専念のため樺太の放棄を主張。

ロシアに樺太領有を認める代わりに，日本が千島列島全てを領有。

B　〔2　　　　　　〕の領有（1876年）

前年に米・英に対し領有宣言して異議がなかったため，内務省のち東京府が管轄。

2 明治初期の東アジアとの関係

①清国との関係

1871年 〔3 〕→日本全権伊達宗城，清国全権李鴻章

※相互に開港し領事裁判権を認め合う初の**対等条約**だが，
日本は不満で1873年に批准。

台湾における**琉球漂流民殺害事件**

1872年 **琉球藩**の設置（前年に鹿児島県に編入されていた）

※**尚泰**を藩王とし華族に列したが，宗主権を主張する清国は強く抗議。

1874年 **台湾出兵〔征台の役〕**→琉球漂流民殺害事件を理由に**西郷従道**が出兵

※〔4 〕はこれに反対し政府から下野。

※大久保利通が北京で交渉，イギリスの調停により日清互換条款を締結。
日本の出兵を正当な抗議と認めた清国が日本に事実上の賠償金として
50万両を支払い，宮古・八重山諸島を日本領とすることで決着した。

1879年 〔5 〕を設置し**琉球処分**を完了→藩王尚泰は東京に移す

※前アメリカ大統領グラントの調停（先島分島案＝宮古･八重山諸島を清に譲り，
清国は日本に西欧並みの権限を与える）は失敗。

②朝鮮との関係

1873年 **征韓論**→武力による朝鮮の開国を目指す

※欧米視察から帰国した**岩倉具視･大久保利通**･伊藤博文ら内治優先派に敗れた，
留守政府の**西郷隆盛・板垣退助**・後藤象二郎・**江藤新平**・副島種臣ら
征韓派の参議が下野（＝**明治六年の政変**）。

※大隈重信・井上馨・山県有朋ら留守政府にも内治優先派はいた。

1875年 〔6 〕

※日本の軍艦雲揚が朝鮮側を挑発し戦闘に発展する。

1876年 **日朝修好条規**〔江華条約〕→日本全権**黒田清隆**

※領事裁判権・関税免除などを承認させた，**日本優位の不平等条約**。

※釜山など3港（のち仁川・元山と決定）の開港と貿易の開始，
清国の宗主権を否定。

まとめ
征韓論争は国内的には二派閥の勢力争いだった。
日本は東アジアには強圧外交，欧米には妥協的な和親外交だった。

第 16 講　PART 3　確認問題

1　新貨条例と関係があるのはどれか。

① 第一国立銀行の設立　② 不換紙幣の発行
③ 銀本位制度の確立　④ 円・銭・厘の十進法の採用

2　国立銀行条例制定に尽力したのはだれか。

① 前島密　② 松方正義
③ 五代友厚　④ 渋沢栄一

3　政商として活動した旧薩摩藩士はだれか。

① 後藤象二郎　② 五代友厚
③ 山県有朋　④ 岩崎弥太郎

4　鉱山を経営した政商はだれか。

① 古河市兵衛　② 前島密
③ 五代友厚　④ 安田善次郎

5　岩倉使節団に副使として随行したのはだれか。

① 西郷隆盛　② 大久保利通
③ 板垣退助　④ 岩倉具視

6 樺太・千島交換条約を結ぶ際，日本全権を務めたのはだれか。

① 伊藤博文　② 伊達宗城
③ 榎本武揚　④ 黒田清隆

7 琉球漂流民殺害事件を理由に台湾に出兵したのはだれか。

① 西郷従道　② 江藤新平
③ 井上馨　④ 副島種臣

8 明治六年の政変で下野したのはだれか。

① 板垣退助　② 大隈重信
③ 大久保利通　④ 井上馨

第16講 PART3　確認問題 解答

1 解答：④　①の**第一国立銀行**の設立は**国立銀行条例**と関係がある。新貨条例では③の銀本位制度ではなく金本位制度を図った。

2 解答：④　**渋沢栄一**は，大蔵省に出仕した後，第一国立銀行や大阪紡績会社の設立など実業界で活躍した。

3 解答：②　④の**岩崎弥太郎**は**政商**だが，土佐藩出身である。

4 解答：①　④の**安田善次郎**は，幕末の両替商出身の政商。

5 解答：②　④の**岩倉具視**は大使。副使としてほかに，木戸孝允，伊藤博文，山口尚芳が参加した。

6 解答：③　②の伊達宗城は**日清修好条規**，④の**黒田清隆**は**日朝修好条規**〔江華条約〕の日本全権。

7 解答：①　**西郷従道**は西郷隆盛の弟で，山県有朋とともに陸海軍の創設に貢献した。

8 解答：①　**明治六年の政変**では，ほかに，**西郷隆盛**，後藤象二郎，**江藤新平**，副島種臣ら征韓派の参議が下野した。